

症例 27

●41歳 女

意識消失発作を主訴として某医受診し、徐脈を指摘された。



- 1) この症例はf波を有し、心房細動と考えられるがRR間隔は一定である。
なぜか。
- 2) 治療はどうすればよいか。

心電図診断

心房細動+完全房室ブロック、心室性補充調律

P波がなく、基線が細かくゆれている(f波)→心房細動

RR間隔は等しい。QRS波は幅広く、約0.12秒→完全房室ブロック+心室性補充調律

解説

心房細動ではRR間隔はまったく不規則で、絶対不整脈でなければならない。心房細動がありながらRR間隔が一定である場合には、完全房室ブロックと下位中枢の自動を考えなければならない。

治療としては、意識消失発作の再発を防ぐため、心拍数を増加させる必要がある。房室ブロックがあるため、アトロピンの効果は期待できず、イソプロテレノールの内服または点滴静注が用いられる。薬剤により、意識消失発作が予防できない場合にはペースメーカー植込みを考慮すべきである。ジギタリス中毒が考えられる場合はジギタリス剤を中止する。